

# 黒部東沢谷

日 時 2015年8月18日(火)～22日(土)

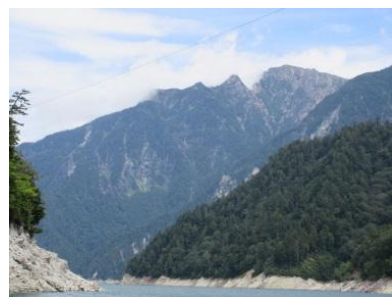
参加者 嶋原(L) 尾崎 小俣(記)

8/18(火)

今回は帰阪中の小俣も乗せ3人で前夜発大阪を出発。扇沢の無料駐車場に深夜着、テントで仮眠となる。

8/19(水) 晴れ

扇沢発のトロリーバスは平日の始発は7:30と遅く、のんびり朝準備をして7時過ぎに券売り場へと向かう。10kg以上は荷物代がいるとのこと。20分くらいでトンネルを抜け黒四ダムに着く。トイレを済ませ、ダムを通り対岸に着くとケーブル乗り場に直結している、そこを左に逸れて湖畔の道に出る(8:07)。観光船乗り場を過ぎコンクリートで整備された湖畔の道をロジックろよんまでまで行く(8:33)。ロジックを過ぎるとすぐにタンボ沢の広い河原が広がり、ここから登山道となる。先に団体さんが見える。途中で抜かせてもらう。赤牛岳方面読売新道を登山とのことである。御山谷の切れ込みを回っているといつまでもロジックがそこに見えていてがっかりである。変わり映えのしない湖岸道を延々と歩き、ようやく平の渡しに着く(11:37)。やや遅れて小俣・尾崎も到着。12時の渡しに乗れる時間に着けた。急な斜面の下が船着き場である。こちら側に船は係留されており、対岸はこちらの人間を送った帰りに積んで戻ることになっているようだ。12:05 渡し場発、12:20 対岸着。こちらの道は栈道が多く、崩れそうな所を繋ぎながら登山道が続く。やがて平たいところに着くと間もなく東沢谷橋 14:40 である。これを超えると直ぐに奥黒部ヒュッテである。手前がテント場である。14:50 着。



(平ノ舟～針ノ木岳)

テントを設営すると、尾崎さんは岩魚釣りに・・・1時間後3人分の岩魚を下げた帰還！！ 宴会の準備は整い、岩魚を堪能！ お隣さんから笹に盛られた刺身の差入れ「なんとスマートなこと」有難く頂戴。お返しにムニエルを進呈。奥黒部ヒュッテは釣りやさんの天国のようである。



(奥黒部でのイワナ3匹)

8/20(木) 曇り時々晴れ、夕方小雨

いよいよ今日は東沢入溪の日である。6:40 テン場出発。ゴルジュの突破は、読売新道を少し登り、水取りホースのところから入溪点へというネット情報で踏跡を辿り谷に下りる(7:00)も、ゴルジュの真ん中でかなりの水量なので、もう少し巻くのではということになり左岸を進むがそういう雰囲気ではない。昨日の受付時、小屋番から「東沢の入溪は読売新道を行き、登山道が急登になる手前から入る」と言われていたのを思い出し、もう一度登山道に戻り確認。ホース道と合っていることが確認されたのと、地図から「昔の東沢登山道はホースが渡してある所に吊り橋がありゴルジュ帯は右岸に道があった」ことがわかる。このこ



(東沢谷最初の渡渉場)

とより、踏み跡通り谷に下り、ゴルジュの中を強引に渡渉。対岸の弱点から右岸に登る(8:00)。すると、廃れた踏み跡が見つかったではないか！ 右岸の踏跡を歩き、たまには谷に出てを繰り返し、ゴルジュ帯を抜ける。ゴルジュを抜けると河原は広がり、沢は明るく広々としてくる。晴天ならば周囲の山々の景観が素晴らしいのではと思うと少々残念である。この後は、一の沢出合、二の沢出合、赤牛沢出合、三の沢出合(11:00)と順調に行程を稼ぐ。昨夜の隣人から「岩魚は三の沢までが良い」と聞いたことから、ここで大休止。昼食と岩魚釣りに興じる。嶋原氏1匹、尾崎氏2匹を吊り上げ、今夜のおかずとする。

ここからは、良いテン場探しとなる。明日を考えると2000mくらいまで高度を上げたいところであったが、苔でふかふかの丁度良い平地を見つけると思わず決めてしまった。1800mあたりにてテント設営(14:00)



(1800m地点)



(東沢谷テン場でのイワナの塩焼き)

今夜は流木を集め、しっかり焚火をおこして岩魚の塩焼きを頂く ことにする。遠火で焼いた岩魚のおいしいこと！！ 沢登りの醍醐味！ 夕方より時折パラつく雨に明日が心配になる。とうとう夜半より雨。

8/21(金) 雨

今日の行程の長さを考え4:00と早起きするが、結構な雨の降りにてテントの撤収がためられる。やや小雨になったところで撤収。「嶋原L、雨で重くなったテントを担いで頂き有難うございます。」

6:00 出発。四の沢、五の沢と分け、水量も徐々に減ってくるが、水温は源流に近づくにつれ冷たくなり、雨で気温も上がらないので、休むと寒くなる。(寒がっていたのは私だけかも) やがて樹相が変わり高山の気配、水量も普通の沢くらいとなってくる。晴れていればこの辺りから、水晶岳・真砂岳・野口五郎岳の囲まれた伸びやかな源流が楽しめるのだが・・・景色なく、ひたすら足元の水流を辿る。ついに、お花畑の中の流れとなる。右に水晶岳からの沢を分け左へ。急登になってきた沢を2人に置いていかれないようひたすら登る。心の声が「晴れ間の中のんびりお花を愛でながら登りたかったんだけど・・・」とにかく寒いので頑張っているしかない。水流が枯れる前に水補給、寒さに備え雨具を上下とも着る。ここから、ガレ場・高山植物・ハイマツを潜り抜け東沢乗越まで詰め上がらねばならない。晴れていればルートも取りやすいのだが、雨ガスの中地図読みと嶋原Lの感で藪漕ぎ最小限で乗越に飛び出る(13:00)。お地藏さまが迎えてくださる。

本来ならここで一休みだが、風雨の中終了の握手を交わし、ブナ立尾根下山の大阪組と伊藤新道中止で笠ヶ岳登山の小俣は左右に分かれる。

大阪組は、17:30 烏帽子テン場着、幕営。

小俣は、13:50 水晶小屋。休憩のつもりで寄ったが小屋泊りの魅力に取りつかれ、宿泊してしまった。小屋は午前中からの宿泊客で早や満室状態。有り余った時間を乾燥と小屋限定本の伊藤さんの『黒部の山賊』を読んで過ごす。

8/22(土) 雨

<大阪組> 6:45 テン場出発、9:30 高瀬ダム着、扇沢までタクシー10:20 着。嶋原車にて、大町薬師の湯に入浴後、18時ころ帰阪。

<小俣> 昨日、三俣まで行かなかったので早出しなくてはと思いながらも、土砂降りと強風で明るくなるまで出発は躊躇われる。5:00 小屋発、三俣山荘 7:30~50、双六小屋 10:00~20、天候回復の見込みなく下山を考える。鏡平小屋 12:50~13:30 昼食、知り合った茨城のご夫婦のご厚意で車に同乗させて頂けることになりバスの心配なく下山できる。わさび平に着く(15:00)ころ雨が上がりだす。下界は雨が上がったようであるが山は雲の中であった。雨具を脱ぎ大休止。会話をしながら新穂高までのんびりと林道をくだる。17:10 新穂高着。風呂に寄り松本まで送って頂く。20:20 発新宿行き高速バスに乗車、帰葉。

お天気がもう一つだった為、感動も今一つとなってしまいましたが、アルプスは深いですネ！ 黒部源流の思い出が増えました。黒部の岩魚はでかくて美味しい！ また、よろしくお願ひ致します。